

今年も早くから桜が開花

「桜開花予想二〇二二年、桜前線はハイペースで北上中！」とネットで報じられ、京都地方気象台は三月二六日に平年より一〇日早く満開を発表しました。東北の福島では三月二九日に満開を発表し、平年より一五

清水 正の

一里一尺

～自然をたずねて～ ⑥

百合もいろいろ

～カタクリ・ササユリ・クロユリ・ウバユリ～

日も早く三月の満開は初めてと言われています。確かに私の記憶では教師になって最初の頃は、入学式に生徒たちは桜の花の下で記念写真をとっていたことを覚えています。それが年を追うごとに入学式には桜の花は散り始めていました。どうやら今年もそうなるようです。

今更ですが温暖化は急速に進み、地球の悲鳴が植物を通じて聞こえてくるかようです。かつて北海道は冷涼な気候ゆえに稲作に不適な地が多く、出来ても美味しくないというのが定説でした。しかし今では北海道米が各種品評会で入賞して、一大産地になってきています。農作物は人間が適地を求めたり、品種改良を加えて植物（農作物）自身は絶滅しませんが、自然界においてはどのようなでしょう。

温暖化に追われるカタクリ
種をまくアリ

現在進行している温暖化はかつての地球が温暖化した速度とは違い、けたはずれに速く、その速度に対応できない植物群が絶滅するだろうと言われています。「その代表の一つはカタクリです」と言うことを生態学の先生から聞いたことがあります。どうしてカタクリなのでしょう。

カタクリの種子が自然に落下すると、その種子についているエライオゾームという物質を求めてアリが来て巣に持ち帰ります。そこでその物質を幼虫の餌として切り離し、いらなくなつた種子本体を巣から運び出し捨てます。（昔のことですがこんな話本当にあるのかなと疑いを持って試してみました。カタクリの種子をアリの通り道におくと、それを見つけたアリがせっせこせっせこ巣へ



カタクリの花



カタクリの種子を運ぶアリ



発芽1年目のカタクリ
(先の丸いのは種子)

運び入れ、しばらくすると種子を遠くに運び捨てて帰るのです。勿論エライオゾームはなくなっていました。驚きました。でもその話がリアルなものとなりました。こうしてカタクリの種子が散布され広がります。従って、この運ばれる距離がカタクリの分布を広げる速度と言うことになります。アリが種子を運ぶ距離の観察をまとめた研究があります。それによるとカタクリの移動は一年に五〇〜六〇cm(一〇年で五〜六メートル)といわれています。カタクリ

は冷涼な気候(北陸・中部以北)の落葉広葉樹林に広がり自生地が多いです。現在の温暖化進行速度はカタクリの移動速度よりも速く、落葉広葉樹林の広がる地域への北進は間に合わず絶滅する可能性が高いと言う事です。あわせてカタクリが種から発芽して花を咲かせるには八年かかり、それが移動速度をより遅くさせています。

生育してきます。しかし多くは暖温带と呼ばれる常緑広葉樹林が広がり自生地は少ないです。そう。した中、京都市内では西山の小塩山に咲くカタクリが有名ですが、ここは西山自然保護ネットワークの方の手によって生息地の環境を守る活動に支えられています。

里山に咲くササユリ

カタクリとおなじ里山に咲くササユリも人気がある花です。大型で薄いピンクのササユリは初夏の風に揺られていると実に気品があります。



カタクリの群生(福井大野)



ササユリの花

花言葉は姿通りに「上品」だそうです。私がこの花を初めて見たのは三〇数年前、まだそんなに沢山の草花や樹々を知らないときでした。安曇川と朽木の境の里山にわずかですが笹の間にササユリが咲いていて、一瞬でその美しさに魅了されました。丁度六月の初めのことです。名前を調べると「ササユリ」とわかりました。「なるほど笹の間に生えているからササユリか」などと馬鹿なことを思ったものです。じっくり見ると

葉っぱが笹の葉によく似ています。花が咲いたから分かるもの。の葉っぱだけでは気づかな

かったでしょう。一緒にいた妻もすっかり「ササユリ」ファンになってしまい、この時以後五月の末あたりになると「もうそろそろササユリが咲く頃と違うか、見に行きたいなあ」と言うようになりました。この稿を皆さんが読まれている頃、きつとどこかの里山で早めのササユリが花開かせていることと思います。私が見かけた安曇川の里山その後ですが、松枯れ（アカマツの一斉集団枯死）、ナラ枯れ（ナラ類の一斉集団枯死）が里山を襲い森がすっかり明るくなったのが切っ掛けでしょうか。ササユリがあちらこちらで咲くようになりました。きつと生息環境が良くなって埋もれていた種子が発芽してきたのでしょうか。そうなんと今度はユリの鱗茎（ユリ根）をねらつてイノシシが地面をほじくります。自然界における生態系はなかなか奥が深いものです。

「種から育てる人は首の長い人」

このササユリもカタクリと同じで種子から花を咲かせるまでに七年もかかります。種子が地上に落ちて翌々年に1cmに満たない一枚葉がでます。そして毎年葉が少し大きくなりながらも一枚葉が出ては枯れ出ては枯れ五年ぐらいいでやっと複数葉になりました。そして七年目やっと花を咲かせるという気の長い生活です。ネットを見ると「ササユリを種子から育てる人は首の長い人です」と書かれていて思わず笑いました。ユリの仲間ではコオニユリ、オニユリ、ヤマユリ、ウバユリなどいづれも長い期間かかってしか花が咲きません。

広がるシンテツポウユリ

しかし、最近路傍や高速道路、林

道の法面^{のりめん}、鉄道沿線にやたらと白いユリが咲いています。これはタカサゴユリ（台湾原産）とテッポウユリ（九州南部、沖縄、台湾、朝鮮）の交雑種でシンテッポウユリと言われています。そしてこの花は種子の数も多く、一年で花を咲かせるために急速に分布を広めています。このままでは生態系にも大きな影響を及ぼすと思われます。

憧れの花 黒百合

ユリだけどユリでない

ずいぶん昔に黒百合は 恋の花
愛する人に ささげれば 二人は
いつかは 結びつく（略）こ
の花ニシバに あげようか あたし
はニシバが 好きささという「黒
百合の歌」（君の名は）第二部主題
歌）が流行しました。私も子どもの
頃に懐メロか何かで聞いたことがあ
ります。この時に歌を聴いた人たち

は北海道や高山にしか咲かないこの花をどんな花だろうとあこがれ、白山や北アルプス、八ヶ岳に登ったのでしようね。私

がクロユリに初めて出会ったのは大雪山系の旭岳でした。少しもユリっぽくないので、ちよつと面食らいました。おまけに何とあまりいいとは言えない臭いに夢が覚めた感じでした。色も黒と言うよりは濃いエンジで網目模様です。花の内側は汚黄色の地にエンジの網、底の方は濃いエンジン色。クロユリは大きい括りではユリなのですが、ササユリ（ユリ属）とは違いバイモ属といわれるグループに属します。園芸の好きな人はバイモ（別名アミガサユリ）を庭



クロユリ



クロユリが咲く中央アルプス

に植えたりしているのではないでしょう。これとクロユリは近縁種です。三年前に桃山御陵道から桓武天皇陵に向かう参道横の森にバイモの小群落を見つけました。誰かが家の庭にあつたものを捨てたのでしょうか。バイモの仲間はユリと違って、みんな下に俯くようにして咲きます。

身近に見られるウバユリ

六年の命

樹木もすっかり葉を広げ林床に木洩れ日しか射さなくなった七、八月



ウバユリの花(写真提供 平尾繁和)



ウバユリの出芽

頃、山道の少し湿った林縁や林の中にニョキッと伸びた緑の茎を見かけます。その先端には花が横向きに数個付けています。開いた花は六枚の花弁の内三枚は上に反り返り、三枚は下に開いています。まるで掌を下にしてばくばくさせているようです。これもユリの仲間のウバユリです。花の色は緑がかった白色と地味です。内側は花芯に行くにしたがつて赤褐色の斑点がグラデーションのように濃くなっています。四

月や五月にこの草に出くわすと、まだ葉がでたばかりでその葉も大きく艶々として、何枚もが巻くように出てきます。まるで

「私はここにいます」と主張しているかのようなです。あまりに目立つので、これを見付けたほとんどの人は「何の花ですか」と聞いてきます。ウバユリは京都の周辺の山でもごく普通に見られます。この花もカタクリやササユリと同じように種子から六年もかかってやっと花を咲かせてく

れます。そして、花を咲かすと枯れます。一生に一度花を咲かせて消えるのです。今あなたがこの花を見かけたら来年はもういないので



ウバユリの果穂(結実)
(写真提供 平尾繁和)

す。たった一時のために六年間葉を出しては消えて栄養を蓄積させ、やっとの思いで花を咲かせたのです。種子を作り子孫を残すために。秋になると大きめの実ができ、その中に沢山のオブライト上の薄い実がぎっしりと詰まっています。強振されると一斉に飛び立っていく姿はみごとです。全てが終わった実の殻はドライフラワーやリースの材料としてよく使われます。変種のオオウバユリは実の数が一〇〜二〇もあり、それは見事なものです。我が家にも信州でとってきたオオウバユリの種殻が飾られています。